

大善寺(甲州市)

ここが大善寺





山門/樓門(仁王門)



山梨県指定文化財 大善寺山門

平成14年3月4日指定

三間一戸楼門、入母屋造、銅版葺。棟札により寛政10年（1798年）に、土屋但馬守英直（茨城県 土浦城主）により再建されたもので、大工は旧大和村の諏訪神社、三島神社の本殿を手掛けた土橋文蔵茂祇である。上下層とも三手先の組物をもちい、当時流行していた彫刻をおさえ重厚さを備えた大建築であり、比較的改変も少なく十八世紀末の甲州建築を知る上で貴重な建造物です。

山梨県教育委員会 甲州市教育委員会 JR鉄道文化財団



これより先禁煙
拝観券が必要です。

登山の御客様、国道沿い東京方面
登山道へ御回り下さい。













長い石段が続く



樂堂







正面が薬師堂/国宝



もくぞうやくしによらいおよびりょうわきじぞう
国重要文化財 木造薬師如来及両脇侍像

明治38年4月4日指定

中尊薬師如来像 座高 86.7cm 脇侍日光菩薩像 像高 102.6cm 脇侍月光菩薩像 像高 101.8cm

三体とも桜材の一木造漆箔像で、密教風を加味した弘仁仏であり、とくに中尊は頭部胴体とも奥行極めて深く、両肩は肉付き豊かで、下腹部が突出し、この緊満した姿態は一木造り特有の量感を示している。峻鋭な刀法は一段とその姿を引きしめ厳肅の度を加えている。

幅広い豊満な顔面、切れ長い眉目、鋭く刻まれ締った口唇などに高邁な相好がうかがえる。刀痕鮮やかな翻波式の衣文は形式化されず、極めて自由な線を表わし、平安初期の雄渾な様風を示している。

両脇侍は中尊と同作であるが、天衣の衣文はやや規則的に翻波の刀法を反復し、股間にのびやかな渦卷皺法を施すなど、この期の特色を現している。

いずれも台座光背は後補である。

山梨県教育委員会 甲州市教育委員会 JR鉄道文化財団

武田勝頼主従 投宿の地（大善寺）

全国統一を競った武田信玄亡き後の勝頼は、織田徳川連合軍の近代装備と物量の前に敗退し、天正十年（1582）3月3日、郡内の岩殿城で再興を図ろうと韮崎の新府城を出発し、途中この柏尾山大善寺で戦勝祈願をして、一夜を明かしました。

しかし、武田家再興がかなわないと見た家臣の大半は夜半に離散し、また、岩殿城主小山田信茂の裏切りに合い、勝頼主従は天目山を目指しましたが、織田徳川の連合軍に行く手をはばまれ、ついに3月11日、勝頼以下一族と家臣は自決し、新羅三郎義光以来500年続いた甲斐源氏も、ここに滅亡したのであります。

その一部始終を見聞した理慶尼が記した理慶尼記は別に武田滅亡記ともいわれ、尼の住んでいた大善寺に今なお大切に保管されています。

山梨県教育委員会 甲州市教育委員会 JR鉄道文化財団

【英語】

甲州ぶどう発祥の地 大善寺伝説

養老二年（718）僧行基が甲斐国を訪れたとき、勝沼の柏尾にいたり、日川の溪谷の大岩の上で修行したところ、満願の日、夢の中に、右手にぶどうを持った薬師如来があらわれたといわれています。

行基はその夢を喜び、早速夢の中にあらわれたお姿と同じ薬師如来像を刻んで安置し寺を開山したのが、今日の柏尾山大善寺であります。

以来、行基は薬園をつくって民衆を救い、法薬のぶどうのつくり方を村人に教えたので、この地にぶどうが栽培されるようになり、これが甲州ぶどうの始まりだと伝えられています。

大善寺伝説は、仏教渡来とともに大陸から我が国にもたらされたぶどうが、薬師信仰と結びついて、この地に伝えられたことを指すものとして理解されます。

山梨県教育委員会 甲州市教育委員会 JR鉄道文化財団

【英語】

二度の焼失の後、鎌倉時代後期の弘安9年(1286年)に鎌倉幕府第9代執権の北条貞時により再建されたという



関東地方に現存する木像建造物では最古のものという









和様を基本としながらも、部分的に大仏様が入り入れられている、いわゆる新和様建築への変化を示す建物とされる





和様の組物であるが大仏様の木鼻も見える









国宝 大善寺本堂 一棟 付 厨子 一基

昭和30年6月22日指定

真言宗智山派の名刹大善寺の本堂は、薬師三尊像（弘仁仏、鎌倉時代、日光、月光、十二神将 国重要文化財）を安置するので薬師堂とも呼ばれる。

方五間（桁行18.02m 梁間17.40m）の堂字で、正面は中の三間を両開き棧唐戸、両端を連子窓とし、両側面の前寄り一間と背面中央一間の出入口以外はすべて板壁で、四周に切目縁を回らす。太い円柱上に豪放な、実肘木つき和様二手先の斗拱を組み、中備に間斗束を置き、軒支輪を付け、二重繁檼によって雄大な寄棟造絵皮葺きの屋根を支える。

内部は前から二間通りを外陣、つぎの二間通りの中央三間を内陣とし、その後方と入側の一間通りをそれぞれ後陣及び脇陣とする。内陣には須弥壇を設け、厨子を置き、本尊を納め、その左右に日光、月光菩薩、十二神将を配する。

内陣・外陣とも、長大な虹梁を架す技法で中央三間通りの柱を抜き、堂内を広く使えるように配慮されている。虹梁の上には特色ある繰形付きの花肘木をのせて上部に天井を受ける。内・外陣の境界は五間とも格子戸・菱組吹寄欄間によって厳しく仕切られるなど、古い密教建築の様風がよく遺されている。

この建物は、執権北条貞時が勅命を奉じ「弘安九参月十六日」（内陣背面両隅柱の刻銘）甲信二か国の棟別銭の喜捨を得て再興した、中世和様建築の典型を示すものであり、関東最古の遺構でもある。昭和29年12月解体復元修補が竣工した。

山梨県教育委員会 甲州市教育委員会 JR鉄道文化財団



























行者堂





行者堂、藤切り祭

行者堂は元禄13年（1700年）建立。堂内の木造役行者椅像は、鎌倉時代後期の作で、古くは金峰山と富士山を結ぶ行者街道の御坂嶺上にあったものを武田信春が境内六所明神の土地に移し、現在の御堂は元禄13年に当堂が完成し、再建されたものです。

毎年5月8日に行われる藤切り祭は、この行者堂前で行われている。藤切り祭は1300年前、役行者が金峰山で大蛇を退治し、地域の人々を救った故事に習い、その徳を慕い御利益にあずかろうと行われている。

大蛇に見立てられた藤蔓を切り落とし、その藤を人々は破邪顕正の守護藤とし、競って奪い合い、家内安全の守りとしています。

本県旧中道町の七覚山円楽寺の役行者像も富士山二合目の行者堂に山開きの折移したと伝えられ、円楽寺でも大善寺同様の藤切が江戸時代末期まで行われていたと「甲斐国志」や「甲斐叢記」は伝えています。

大善寺の藤切り祭は中世の富士山信仰の一端を伝える貴重な祭りであるとも言われています。

山梨県教育委員会 甲州市教育委員会 JR鉄道文化財団

【英語】

鐘樓







ここから見る勝沼の風景





稚児堂







稚児堂

弘化三年(1846)再建立 当寺の
大祭藤切り祭の稚児舞の舞台と
して使用するものです。
縁日の日には楽堂で音楽を奏で
稚児堂で舞をまい、参拝者を楽
ませたとされています。

樂堂



元の場所まで下りる



山門





さて、山梨県史跡名勝の庭園を見てみよう





文化財
重要文化財
善寺
本堂・薬師堂
鎌倉時代
火災調査
HITACHI

薬師堂
鎌倉時代末期
火災調査
HITACHI

薬師堂
鎌倉時代末期
火災調査
HITACHI

大町町史
大町町史

水子育民館
水子育民館

このため村史
このため村史

国宝 及び重要文化財

薬師堂 鎌倉時代 (弘安九年(二八六年))

厨子堂 南北朝時代 (文中四年(三五五年))

薬師三尊像 平安時代初期 (安仁堂)

十二神将像 鎌倉時代 (嘉祥三年(一二七))

日光菩薩像 〃

月光菩薩像 〃

役行者像 鎌倉時代

鰐口 鎌倉時代 (徳治二年(三〇四年))

太刀 室町時代 (寛永十九年 奉納品)

山門 江戸時代 (寛永十年(二七九年))

庭園 江戸時代 (寛永年間)

古文書 平安時代から 江戸初期まで

その他、町指定文化財多数有り

県の重要文化財

県の史跡名勝

県の重要文化財

ここから入る





見事な庭園



こんなものもあった



参考ホームページ

<http://www.katsunuma.ne.jp/~daizenji/>

<http://mapbinder.com/Map/Japan/Yamanashi/Kosyu/Daizenji/Daizenji.html>

<http://koutabi.byoubu.com/kousyuu/daizen.html>

<http://kankodori.net/japaneseculture/treasure/029/index.html>

<http://members.jcom.home.ne.jp/urawa328/daizenji.html>

